

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

昭和十一年鐵鋼製鐵會社

(1) 現今ノ狀況ニ於ケル輸入銑量及之ガ對抗國內銑供給見込
昭和十年外銑需要高ハ左ノ如シ

區別	一―三月實蹟	四―六月實蹟	七―九月豫定	十―十二月豫定	計
滿洲銑	一〇一、〇七〇	八九、七三〇	五七、四四〇	九二、〇〇〇	三四〇、二四〇
外國銑	一七五、〇四〇	一五四、七六〇	一四九、四九〇	一三六、〇〇〇	六一五、二九〇
計	二七六、一一〇	二四四、四九〇	二〇六、九三〇	二二八、〇〇〇	九五五、五三〇

今後或ル期間ノ輸入銑量ヲ昭和十年ノ夫レト同額ト看做シ之ニ對抗
スヘキ滿洲銑及國內銑ノ供給見込ハ左ノ如シ

一 將來滿洲ヨリ輸入可能量 二〇〇、〇〇〇 噸

二 社外ニ於ケル増産計畫 二〇〇、〇〇〇 噸

右ハ當該業者ニ於テ製鋼原料ニ供スルニ至レバ銑鐵トシテ一般ニ供給セラレザ
ルコトトナルベキモノナルモ差當リテノ計算ニハ之ヲ銑鐵供給量ニ算入スルコ
トトセリ

三日鐵第一次増産計畫 (一、〇〇〇 噸高爐一基) 三五〇、〇〇〇 噸

1
(3)

鐵道部 鐵道局 鐵道部 (鐵道部)

鐵道部 鐵道局 鐵道部 (鐵道部)

鐵道部 鐵道局 鐵道部 (鐵道部)

鐵道部 鐵道局 鐵道部 (鐵道部)

鐵道部 鐵道局 鐵道部 (鐵道部)

鐵道部 鐵道局 鐵道部 (鐵道部)

鐵道部 鐵道局 鐵道部 (鐵道部)

鐵道部 鐵道局 鐵道部 (鐵道部)

(2)

四日鐵第二次増産計畫 (兼二浦三五〇噸高爐各一基)

計

差引供給過剩

二五〇、〇〇〇 噸
一、〇〇〇、〇〇〇 噸
四五〇、〇〇〇 噸

本計算ノミニテハ一應四萬餘噸供給過剩ノ姿ヲ呈スルモ現下ニ於ケル製鋼上ノ屑鐵使用歩合ヲ規範化スルニハ次表(ロ)ノ如ク八幡ノミニテ年額約三十萬噸ヲ要スル計算ナルニ由リ事實上全体的ニハ過剩トナルカ如キコトアラザルベシ

日本製鐵株式會社

一
(2)

此種情形，其所以發生者，實由於
 經濟活動之不振，而致生產量之減少，
 故其結果，即為失業之增加，及國民
 生活之困苦。此種情形，在戰前，
 曾屢次發生，且其程度，亦甚為嚴重。
 然在戰後，則由於經濟之復甦，及
 生產量之增加，故失業之現象，已
 不復見。此種情形，實為戰後經濟
 發展之結果，亦即國民生活之改善。
 故在戰後，國民生活，已較戰前為
 優越。此種情形，實為戰後經濟發
 展之結果，亦即國民生活之改善。

日本製鐵株式會社

(四) 八幡ニ於ケル屑鐵使用歩合ヲ規範化スル場合ノ銑鐵所要增加量

一 鋼塊生産高ヲ第五期計畫ニ依ル(九七三、八七〇噸)

一 第三期ニ於ケル屑鐵使用歩合(非規範的)左ノ如シ

第一製鋼	五九八〇%
第二	三七三五
第三	三九二〇
第四	六〇七〇
平均	四五五〇
一屑鐵使用規範歩合	三〇%

$$(45,5\% - 30\%) \times 972 \text{千噸} = 150,4 \text{千噸} \dots \text{年額}$$

$$(150,4)$$

區別	昭和十一年一月 - 三月		昭和十一年四月 - 六月		昭和十一年七月 - 九月	
	製鋼用	鑄物用	計	計	計	計
瀋陽鐵	四三,一〇〇	五七,九七〇	一〇一,〇七〇	三三,三〇〇	五八,五三〇	九一,八三〇
本溪湖	六三,五〇〇	七六,六〇〇	一三九,一〇〇	五,〇〇〇	六八,九〇〇	一三三,五〇〇
鞍山	三六,八五〇	五〇,三〇〇	八七,一五〇	二五,五〇〇	五二,六四〇	一〇五,〇〇〇
外 鐵	二二,〇〇〇	六二,三四〇	八四,三四〇	九七,八五〇	一五四,七六〇	二四六,五一〇
ハーン	四七,四五〇	三五,五九〇	八三,〇四〇	二,三〇〇	一四九,一〇〇	一五一,四〇〇
夕 〇	二二,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一二二,〇〇〇	〇,〇〇〇	一二二,〇〇〇	一二二,〇〇〇
ソノガレ						
ソノエト	四三,二五〇	二五,七五〇	六九,〇〇〇	四八,一〇〇	二二,〇〇〇	七〇,一〇〇
瀋陽				二〇,二〇〇		二〇,二〇〇
計	一五五,八〇〇	二二〇,三〇〇	三七六,一〇〇	一三九,〇五〇	二五四,四二〇	三四四,九二〇

外鉄供給実績及び見込

製鋼部

昭和十一年度供給概算表

日本製鐵株式会社

日本標準規格 B5 (182×275mm)

日本製鐵株式會社

(鑛山局ヨリノ要求ニ依リ第五期事業計畫書ニ追記事項)

第五期內市場ニ於ケル銑鐵需給ノ豫想ト之ニ對處
スベキ本社ノ方針

本社ハ本年七月ヨリ其ノ生産銑鐵ヲ銑鐵共販會社ニ委託販賣ヲ爲サザルコトトナリタルモ七月乃至九月ノ販賣數量ニ付テハ共販會社ト協議ノ結果其ノ數量ヲ決定シ十月以降ニ付テハ日滿協調ノ上内地ニ於ケル需給ヲ圓滑ナラシムルヲ期シ居レル所ナリ
第五期ニ於ケル銑鐵ノ供給可能見込ハ

(一) 本社銑

~~〇~~

自本年十月間	一九一、〇〇〇 應
自明年三月間	一四四、〇〇〇 應
計	三三五、〇〇〇 應

滿洲鉄

自本年十月間

九三〇〇〇〇應 (滿洲側提示)

自明年三月間

六五〇〇〇〇應 (本社推定)

計

一五七〇〇〇〇應

(外) 外國鉄ニシテ輸入手當済 明年三月迄ニ内地到着見込

ソ 鉄 一八〇〇〇〇〇應 (本年八月中ニ入荷)

パ ー ン 鉄 一五〇〇〇〇〇應 (内七五〇〇〇〇屯ハ年内入荷)

タ タ 鉄 七〇〇〇〇〇應 (年内入荷)

ベ ン ゴ ー ル 鉄 七三〇〇〇〇〇應 (月割一三〇〇〇〇〇應入荷)

計 二四七〇〇〇〇〇應

合 計 七三九〇〇〇〇〇應

而シテ之ニ對スル需給見込ハ

日本製鐵株式会社

日本製鐵株式會社

自本年十月三月間 至本年十二月三月間 二九〇〇〇〇應 (確定見込ノ分)

自明年三月三月間 至明年三月三月間 三〇〇〇〇〇應乃至三五〇〇〇〇應

合計 五九〇〇〇〇應乃至六四〇〇〇〇應

ナリ

存貯如クナルヲ以テ供給上數量のニハ特ニ不安存セザルモ一般狀勢ノ變化ハ今ヨリ之ヲ豫知シ難ク旁本社ノ立場上價格統制ノ必要モアルベキヲ以テ本社トシテ將來ニ對スル關係上關係商社ヲシテ外統ノ輸入ニ付キテモ目下慎重ニ攻究セシメツ、アリ

10-11-14 野本氏蔵

鉄鐵需要 / 増加

(A) 輸入鉄防過 / 増 (有田略)

(B) 製鋼原料 / 輸入 / 増 / 一部 / 鉄鐵 / 代用 / 増

(C) 製鋼工場 / 擴張 / 完成 / 鋼塊 / 増産 / 増

(D) 日本製鐵第三營業期 - 於此 / 八 / 箇 / 鐵鐵 / 所 / 主要 / 製鋼 / 工場 - 於此 / 鐵鐵 / 使用 / 割合 / 示 / 下 / 如 / 左

工場名	鐵鐵使用割合
第一製鐵	59.80%
第二製鐵	37.35%
第三製鐵	39.20%
第四製鐵	60.90%
平均	45.50%
鋼塊生産高	910,000 吨

日本製鐵株式會社

今後は「他作業所」現在、低レベルの増産は、鉄、屑、配合割合

770:30トール増産

自家製鋼用鉄、増加、下記トール

鋼塊年産高

製鋼用鉄、増加率

$$(910,000 \times 2) \times (0.455 - 0.300) \div 280,000 \text{ 吨}$$

※
本業増産増
高八段増産
113,000吨
130,000
243,000

此の
足る

(1) 日鐵第一次擴張計画完成後、鉄鋼生産能力増加、金口 = 約 50,000 吨、準備は約 243,000 吨 (需要から除く) 計

293,000 吨 + 11,

之は對して(10)、増産同様 70%、鉄鐵の使用も「トール」所要
鉄鐵、量、下記トール

$$293,000 \times 0.7$$

205,100

$$\div 210,000 \text{ 吨}$$

鋼塊歩出り

八中局、才二期 原鉄使用割合

	A 原鉄使用量	B 原鉄及鉛鉄使用量	A/B 原鉄使用割合
才一期 銅	125,982 a	210,656 e	59.80%
才二期	121,702	325,781	37.35
才三期	126,976	323,993	39.20
才四期	48,423	79,774	60.70
合計 (平均)	423,083	930,204	45.50

製 鐵 所

日本標準規格 B (182 x 257mm)

日本標準規格 B (182 x 257mm)

22%
45%

75
30
22,500 mm

49,000 x 15 22x + 45(x - 22x)
26,000 x 27.5 45x - 990x

275 25 1,100 22%
25 225 45 5,000 = 11,000
1650 49 22%
550 295 45 25,000 = 11,250
7150 635 22%
715 715

75-) 1340 (18)
95
590

改築方針

鉄鋼需要急増ニ應ズベキ應急的施設トシテ輪西及兼二浦
ニ三五〇應高爐各一基建設ヲ企圖セシ數字の根據

昭和一〇年上期鉄鋼輸入高
下期ハ上期ニ比シ一〇%減ト假定セバ

將來滿洲ヨリノ輸入可能量

社外ニ於ケル増産計畫

差引増産(遺メ増産)噸數

日鐵第一次増産計畫(千應高爐一基)

再差引差當リ増産ヲ要スル數量

五〇五〇〇	五〇五〇〇	四五五〇〇	九六〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	五六〇〇〇	三五〇〇〇	二一〇〇〇
應	應	應	應	應	應	應	應	應	應

一〇、八、二四日 鐵鋼部(鐵鋼) 株式會社

下調

昭和10. 8. 23
野本氏蔵
野本氏蔵
野本氏蔵

銑鐵需要急増 = 應スベキ應急的施設トシテ輸西及兼二浦
= 350瓩高炉各1基建設ヲ企圖セシ数字的根據

(A) 昭和10年上期銑鐵輸入高 505,000 瓩

下期ハ上期 = 比シ10%減ト假定セバ 455,000 年計 960,000 年計

將來滿洲ヨリノ輸入可能量 (低煉銑ヲ除ク) 200,000 年計

*社外 = 於ケル増産計画 200,000 年計 淺野 170 年計

差引輸入防護ノタメ増産スベキ数量 560,000 年計

日銑第一次増産計画 (4瓩高炉1基) 350,000 年計

再差引増産スベキ数量 210,000 年計

日本製鐵株式會社

(B) 昭和10年上期屑銑輸入高 1,020,000 瓩

下期ハ上期 = 比シ10%減ト假定セバ 918,000 年計 1,938,000 年計

2,000,000 瓩 = 近キ屑銑ノ輸入ハ異常, 事 = 屬シ
將來ハ到底之ヲ望ミ得ベカラズ
其ノ幾割カハ銑鐵ヲ代用スルノ要アリ
之ガタメニモ相當ノ増産設備ヲ必要トス

備考	屑銑輸入高	昭和7年	559,000 瓩
		8年	1,012,000 年計
		9年	1,412,000 年計

5990 0000